

総括

■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および1月27日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は1979年に開設され、地域のリハビリテーション医療の中核病院として発展を遂げてこられた。臨床においても質の高い医療を展開され、病院機能評価を継続的に受審するほか、回復期リハビリテーション機能における病院機能評価も受審され、今回はその更新審査となった。

この度の審査では、医療の質向上に主体的に取り組んでいる姿勢が具体的に現れているものが多数確認された。今後も病院機能のさらなる充実に向けて全職員が一丸となって検討され、今後の貴院の一層の発展につなげることを期待したい。

2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

病院の理念、基本方針は明確である。充実したリハビリテーション・ケアを提供できる職員を配置し、医師はリハビリテーション科専門医4名、認定臨床医1名はじめ計8名在籍し、リハビリテーション科専門医が全ての病棟でサポートできる体制となっている。リハビリテーションを提供するための組織体制が確立し、各病棟で病棟運営会議を開催し、業務上の課題の抽出やその真因の特定、対策の立案と効果の検証が行われている。

医療関連感染、急変時に対する取り組みは適切である。院内は十分なスペースが確保され、それぞれの身体機能を考慮した設備があり、各種感知器や顔認証システムを導入し、転倒・転落、離院、部外者侵入防止にも配慮している。

各種データは診療情報管理士が一括して管理し、各種委員会で情報共有し公表している。自院の課題の把握には全職員を対象に半年毎に面談を行い、ボトムアップ的な提案が取り入れられる仕組みがある。回復期リハビリテーションに関する教

育・研修は、病院の教育研修委員会で年間計画が立案され実践されている。急性期病院や退院後の介護サービス事業者との連携は円滑に行われている。積極的に地域の病院・施設等と連携をとり、各専門職種は勉強会や事例検討会等をコロナ禍でもZoomや小規模開催で工夫し、地域の医療機関や介護福祉施設との円滑な連携を継続的に行っている。

3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

医師は医学的問題、リハビリテーション実施における問題の評価に基づき、リハビリテーション処方やリスクに関する指示を行っている。なお、今後は患者の状態に応じて段階的に指示を更新していくことを検討されると良い。他職種とのコミュニケーションを十分とりながらリーダーシップを発揮し、患者の病態や障害に関する医学的観点からの指導や職種間の意見の調整などに、適切に役割を果たしている。

看護・介護職は、回復期リハビリテーション病棟に特化した看護師・介護福祉士・看護補助者マニュアルが整備され、それぞれの業務分掌と業務範囲が明確化されている。月1回チーム会を行い、入院時より生活期までを軸としたオリジナルの退院支援ロードマップを作成し、担当看護師がやるべき工程に沿って退院支援を実践している。看護研究にも積極的に取り組み、各種学会や雑誌掲載など院外発表を継続的に行っていることは評価される。

リハビリテーションは、各療法の評価項目が共通の書式で標準化され、定期的に評価が実施されている。退院後の生活については、入院早期に自宅の見取り図や写真などを聴取し、自宅の環境を想定したリハビリテーションを導入している。また、シミュレーションハウスで模擬的な訓練や介助指導含めて実施しており評価できる。

回復期リハビリテーション病棟の各フロアに社会福祉士が専任配置され、入院前から生活期まで患者・家族と関わりソーシャルワークを展開している。入院インテーク面談では、病前の生活や背景、就労や就学状況、経済状況を十分把握し、スムーズな入院生活の支援を行っている。多様なカンファレンスやミーティングに全て参加し、リハビリテーション・ケアに関する課題とソーシャルワーク課題をそれぞれ抽出し、患者支援の改善に繋げるとともにニーズや意向の確認をしている。

管理栄養士は、MNAを用いたスクリーニングとアセスメントを行い栄養状態を評価している。栄養管理が必須となる患者に対しては定期的な栄養管理計画書を作成し、カンファレンスの場で具体的な提案を行い実践につなげている。毎日のミールラウンドでの観察と患者からの嗜好聴取などを通じて、実生活に応じた評価と介入を実施し、最適な食事をタイムリーに提供している。退院後も継続した栄養管理が必要な患者には、他職種と協働して栄養指導を行っており適切である。

4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院当日に多職種合同評価を行い、入院診療計画書および暫定的なリハビリテーション実施計画書を作成している。今後は、リハビリテーション実施計画書における計画と目標が入院後可及的早期に説明され、患者・家族の意向を確認した上でリハビリテーションが開始されるとなお良い。入院後2週間以内にベッドサイドカンファレンスで、リハビリテーション場面を多職種で評価し、診療計画の再評価に基づき目標とゴールを再設定している。患者個々のADL経過については、共有しやすい運用方法等の検討が望まれる。

医師によるリハビリテーション指示のもとに入院当日から疾患別リハビリテーションが実施されている。担当者やリハビリテーションスケジュールは床頭台に掲示し、患者自身も確認することで主体的な参加や意欲向上を図っている。病棟での朝の申し送りには多職種が参加し、夜間の患者情報を共有し、患者スケジュール等も確認している。療法士間での代行業務は、カルテの評価チャートで共有されており、適切である。

定期的なカンファレンスが多職種によって開催され、情報を共有してリハビリテーション計画を見直し、継続する課題や新たな課題を確認しているが、短期目標に関して、多職種協業で課題を達成するような問題解決型議論を期待したい。長期目標においては、チームとしての期間の明確化を期待したい。

入院時より生活環境調査マニュアルに沿って、自宅復帰に向けた課題と、主介護者の介護能力や住宅環境等の情報収集が行われている。多職種による自宅生活における課題の評価・検討が行われており、退院時には多職種統合サマリーを作成している。自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みとして、退院後1か月以内に在宅状況確認書に沿って電話フォローアップを行い、自宅生活での身体機能の評価と、生活上の課題を把握している。

1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	Ⅱ
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	Ⅱ
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	Ⅱ
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	Ⅱ
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	Ⅱ
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	Ⅱ
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	Ⅱ
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	Ⅱ
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	Ⅱ
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	Ⅱ

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	Ⅲ
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ

3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	Ⅲ
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	Ⅲ
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	Ⅱ
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	Ⅲ
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	Ⅱ
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	Ⅱ